



継ぎ目に隙なし

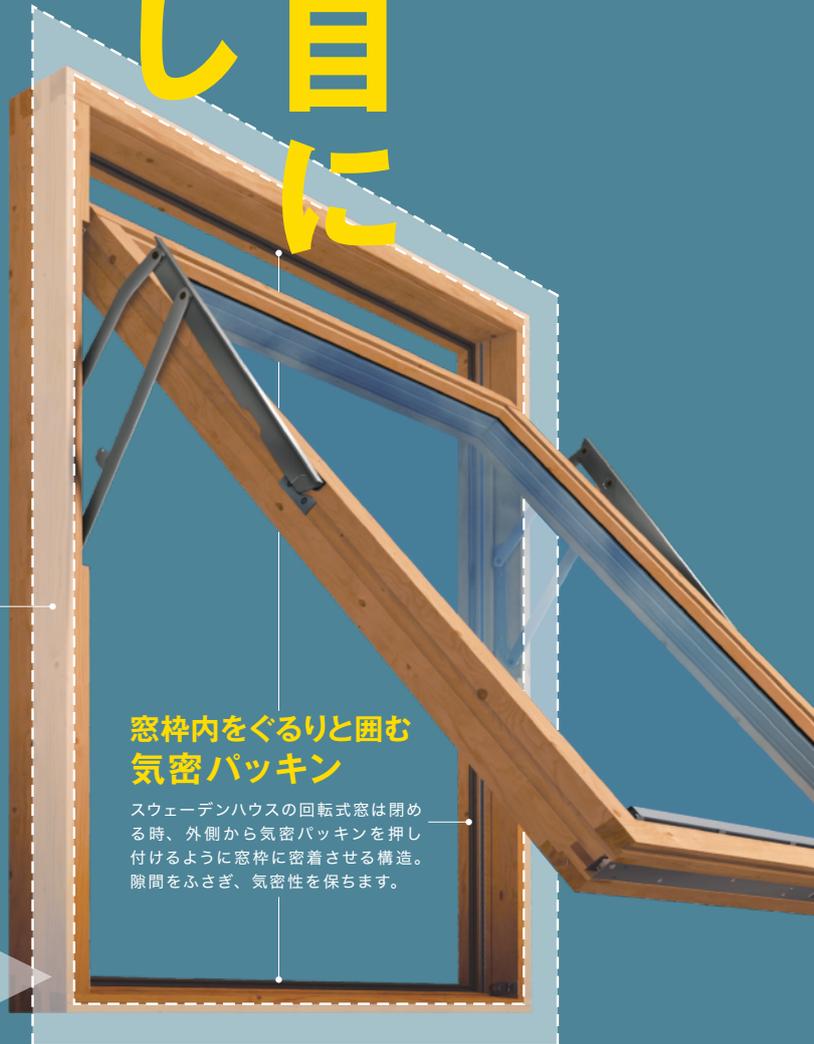
その⑥

「継ぎ目に隙なし」として気密対策をご紹介します。6回、今回は窓を取り上げます。

家で過ごす時間が増えたという方が多くなるにつれて、世間では「平日の昼間、外からの騒音がこんなに聞こえるなんて知らなかった」という声を耳にする機会も多くなりました。実はその騒音は、ほぼ窓から入ってきています。

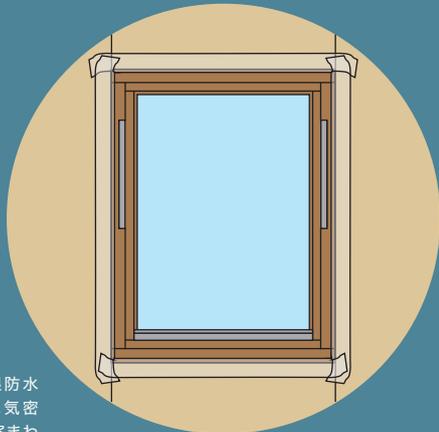
窓は、閉めていても音や熱（暑さ、寒さ）の出入り口となります。窓の性能自体が、家全体の快適と不快を決めるカギと言っても過言ではありません。

スウェーデンハウスの窓は木製サッシと3層ガラスで構成されていますが、音や熱の出入りに大きく



窓枠内をぐるりと囲む気密パッキン

スウェーデンハウスの回転式窓は閉める時、外側から気密パッキンを押し付けるように窓枠に密着させる構造。隙間をふさぎ、気密性を保ちます。



ピンホールやしわが生じないように、丁寧に圧着して4辺に防水気密テープを貼ります。

防水気密テープ

窓枠と躯体パネルの透湿防水シートを75mm幅の防水気密テープで留め付けます。窓まわりにわずかな隙間をつくらず、気密性と防水性を確保します。

スウェーデンハウスでは、建具の気密性能試験（防音・断熱・防塵建築用）で最高等級A-4を取得した気密性能を備えた窓とドアを採用。

影響する気密性能という視点からいうと回転式という開閉方式は特に重要なポイントになります。一般的な引き違い窓は、開閉させるためにレール

の上に車輪が乗る構造なので、窓を閉めても窓の上下の部分、つまりサッシと窓枠の間に必ず隙間が生じて、気密性を保つことができません。一方、スウェー

デンハウスの回転式窓は閉める際、外側から四方の気密パッキンを押し付けるように窓枠に密着

させることで隙間をふさぎ、気密性を保ちます。※1これは旅客機や新幹線のドアと似た原理です。

スウェーデンハウスの室内で開いていた窓を閉めると、その静けさに驚かれることがありません。数値で示すと、外が80dB（混雑した交差点の騒音レベル）でも窓で※2 32dBカットして室内は48dB（図書館の中のレベル）まで軽減させるほどの遮音性能です。

もちろん施工する際も、躯体パネル外側の窓枠と透湿防水シートを防水気密テープで留め付けて、

防水性と気密性

の両方を確保します

（図参照）。気密性能の高さは、快適で健康な暮らしを送るために必要不可欠な要素。だからこそスウェーデンハウスは、部材それぞれの性能はもちろん、それらを施工する際にも、建物に極力隙間をつくらぬことにこだわり、様々な対策を行っています。そのほとんどは、建物が完成してしまえば目にするのではない部分。しかし、このような細かい施工方法の積み重ねが、快適な暮らしを支えていることには違いありません。



※1：The SWEDEN HOUSE 144号 P.18 参照 ※2：500Hzの場合